

第 1791 回（7 月 13 日）

農林公庫融資先経営者の営農上の 意向について

—— 全国調査結果から ——

恒 川 磯 雄

前職の農林漁業金融公庫において担当した、公庫資金（大半がスーパー L 資金）の融資先を対象とした「貸付先経営動向把握調査」（平成 9 年度分）のうち、特に設計ととりまとめを担当した農業経営者の意向調査結果からその特徴点を報告した。なお本調査は全国で 12 の営農類型、計約 1,800 件を対象とし、各県の農業改良普及組織の協力を得て実施したものである。

営農上の当面の課題について尋ねた結果では、稲作では「農地の借入による規模拡大」か「作業受託の規模拡大」を 1 位としたものが各々 20%、18% と高く、順位で重みづけした得点も 10 項目中 1・2 位となり最重要課題であることが示された。「農地の購入」は全体では回答が少なかったが、区分集計では作付 15ha 以上階層や北海道で 1 位にあげたものが 20% を超えて高い比率となった。また「経営の複合化」は北海道及び法人経営の区分で特に関心が高く、このうち前者は米価下落の影響と見られる。「販売方法の改善」は北陸と法人経営で関心が高かった。

酪農では「飼養管理技術の改善」「糞尿処理の改善」の回答割合が高く、また「増頭による規模拡大」を 1 位としたものも 33% に達し、得点でみるとこの 3 項目で特に高い値となった。規模拡大指向は地域や階層を問わず共通してみられた。糞尿処理は特に大規模になるほど得点が高く、切実な問題であることが示された。「労働時間の短縮」は規模に関わらず個人経営では関心が高いが、法人経営ではやや低かった。

北海道畑作では「栽培技術の改善」に回答が集中し、「農地の購入」と「農地の借入」も

上位とした割合が比較的高かった。果樹ではかんきつで「新品種への転換」「栽培技術」が上位を占めたのに対し、りんごでは「販売方法の改善」に回答が際立って集中した。施設園芸では「施設の拡大拡充」と「肥培管理技術等の改善」の割合が高かった。肥育牛では「増頭・規模拡大」「糞尿処理改善」「資金等経営管理」「労働時間の短縮」に関心が分散し、養豚では「防疫対策」に回答が集中した。

以上の営農類型ごとの回答傾向をまとめると、①当面規模拡大を指向する経営はこれが課題の第 1 位に来るケースが多い、②全体では耕種での栽培技術、畜産での飼養管理といった技術的事項への関心が最も高い、③販売や簿記記帳など経営管理問題はそれに次ぎ、④労働時間の短縮・ゆとりの創出については回答率自体はかなり高いが優先順位は低い、という結果になった。

また、農業経営の後継者について尋ねた結果では、個人経営の合計で「後継者はすでに就農」「予定者あり」は併せて 39% にすぎず、「就農するか不明」「予定者も含め後継者はいない」がそれぞれ 24%、25% を占めた。また、法人経営の後継者の確保状況は個人経営をかなり上回った。

農業経営の継承については、家族経営のほぼ半数が「家族・親族へ継承見込」と答え、その値は耕種が畜産よりやや高かった。他方、後継者の確保難を反映して「継承はわからない等」も 27% に上った。法人経営では「血縁や地縁にはこだわらずに相手次第で継承」が 22% を占めたのも目立った。

このほか、家計と経営の分離（収支面と資金面）の状況、個人経営に対しては経営の法人化への関心度とその理由、法人経営に対しては法人化した理由と実際の目標達成度についても回答状況を紹介した。